

第4章 組織的に学力向上に取り組むための校内研修の取組

－本資料を活用して実践事例に学ぶ－

新しい取組を始める際に、既に一定の成果が認められている先行事例に学んだり、追試してみたりすることも大切です。本資料も、平成18年度における総合教育センターの調査研究で作成した冊子「授業評価の導入と活用に関する参考資料（小・中学校編）子どもと共につくるよりよい授業を目指して－授業評価の導入と授業研究会の新しい展開－」（平成19年3月）（以下「小・中学校編」と称す）を参考に作成しました。

この章では、高等学校の実践に生かせることを小・中学校の実践から学ぶために、右の「小・中学校編」を検討した、本調査研究の第1回調査研究委員会の模様とともに、本資料「校内研修に関する参考資料（高等学校）」自体の活用例を紹介します。



1 ワークショップ型研修で実践事例に学ぶ

－第1回調査研究委員会にて－

本調査研究の第1回調査研究委員会には、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部の田代直幸教育課程調査官を助言者として招聘しました。この委員会では、助言者の提案により、「冊子『子どもと共につくるよりよい授業を目指して』から学ぶ」と題して、ワークショップ型の研究協議を行いました。参加者が自校でできそうなことや参考になったことを「小・中学校編」から見出して、それを互いに紹介し合うというものです。他者の指摘から新たな気づきが生まれ、実践の可能性に広がり期待できます。

実際に、この作業を通して、4校の調査研究協力校の参加者からは、次のような気づきが挙げられました。

- 「児童の声を生かそうとする姿を教師が見せることで、児童の学習意欲が高まることに気付かされました。」(p. 13「児童による授業評価」)
- 「授業評価を疑問視していた教師が、実際に実施することで、子どもたちの声を聞くことができ、授業を見直そうとする意識が高まったこと。」(p. 14「児童による授業評価」)
- 「教師と生徒が授業中に何でも言い合える人間関係づくりのよい機会としたい」(p. 26「授業評価によって明らかになった改善の視点」)
- 「年間2回の授業評価を取り入れることによって、PDCAの大きな流れの中で、年間を通して授業改善を図っています。」(p. 30「学校評価に授業評価を位

置付けた取組)」

- 「授業は『教師と児童生徒とでつくっていくもの』という意識を教師が持つことが大切」(p. 33「学校評価に授業評価を位置付けた取組」)
- 「企業では『仕事を通じた職場での教育訓練』をOJT (on-the-job training) と呼んでいますが、この学校では、それをもう一步進めた『仕事を通じた学び』にまで高めています。」(p. 37「教員の学びを進めるOJT」)
- 「プロンプターの役割が重要」(p. 48「ワークショップ型授業研究会」)

このように、高等学校の先生方も、小・中学校の実践事例から学ぶことがあったわけです。

2 ワークショップ型研修で実践事例に学ぶ

－新任学習指導主任研修会（小・中学校）にて－

総合教育センターにおける平成19年度の「新任学習指導主任研修（小・中学校）」において、「小・中学校編」を紹介する機会がありました。「小・中学校編」の資料は全60ページに及ぶため、40分という限られた時間の中で全ての内容を詳しく紹介することは不可能です。そこで、第1回調査研究委員会を参考に、ワークショップ型の手法を用いた学習会の時間としました。

受講者には、まず目次の見出し（下図参照）に注目して、関心を持った事例のページだけに目を通してもらい、それを参考にして自校で実践が可能なことについて考えてもらいました。さらに、それを4～5人のグループ内で紹介し合うことで、他者の気付きから互いに実践の可能性を学び合うということができました。このような形により、限られた時間の中で資料を活用するとともに、実践事例、先行事例から学ぶ機会を作ることができました。

「授業評価の導入と活用に関する参考資料（小・中学校編）子どもと共につくるよりよい授業を目指して－授業評価の導入と授業研究会の新しい展開－」（栃木県総合教育センター 平成19年3月）	
事例1 子どもと共につくるよりよい授業を目指して	児童生徒による授業評価
事例2 カリキュラムづくりに生かす授業評価	マネジメント・サイクル
事例3 生徒の視点で取り組んだ授業評価への挑戦	授業評価
事例4 授業評価によって明らかになった改善の視点	評価票の改善
事例5 学校評価に授業評価を位置付けた取組 「地域の信頼に応える学校づくり」	学校評価
事例6 教員の学びを進めるOJT (on-the-job training) 「対話リフレクションによる授業研究」	OJT
事例7 模擬授業を取り入れた授業研究会	模擬授業
事例8 授業評価とビデオを活用した授業研究会の工夫	ビデオ
事例9 ワークショップ型授業研究会	ワークショップ
1 ワークショップ型授業研究会	
2 授業リフレクションの手法を用いた授業研究会	

3 ワークショップ型研修を校内研修で —本資料の活用例—

本資料「授業評価と授業研究会に関する参考資料（高等学校）—校内研修を通じた授業改善を目指して—」の活用にあたっては、紹介されている事例が担当の教科と異なる事例であっても、教科の枠を超えて指導に生かすという視点で御覧ください。本資料が小・中学校の実践事例を参考にして生まれたように、他教科の事例からも参考になることがあるでしょう。

先に挙げたワークショップ型研修を応用すれば、本資料を活用して、次のような校内研修を展開することも考えられます。

☆準備するもの

- ①模造紙1枚（「アクションプランシート」と名付ける）
縦軸に「すぐにできること」、「今年度中にできること」、「次年度にできること」、横軸に「個人レベルで実現可能」、「教科ぐるみで実現可能」、「学校をあげて実現可能」と仕切って、マトリックス型に書く。
- ②3色の付箋×10枚×参加者分
- ③サインペン×参加者分
- ④本資料またはその複製物（総合教育センターのホームページからダウンロード可能）×参加者分

展開1：本資料を読んで、そのまま実践してみたいことや、アレンジして自校化したいこと、独自に考えたことなどのアイデアを、色別の付箋に書きます。

（例：「個人レベル＝水色」、「教科ぐるみ＝ピンク」、「学校をあげて＝黄色」）

展開2：付箋を貼り出してグルーピングし、実行に移すことを参加者で考えます。

マトリックス型のアクションプランシート

「授業評価と授業研究会に関する参考資料（高等学校）—校内研修を通じた授業改善を目指して—」を読んで実行してみたいこと

	個人レベルで実行可能	教科ぐるみで実行可能	学校をあげて実行可能
すぐにできること	小さなメモ用紙を用いた授業評価	リアクションペーパーを用いた質問の聞き取りとフィードバック	授業アンケートによる「〇〇科で身に付けたい力」の調査
今年度中にできること	独自の重点課題に沿った授業評価と授業改善	総合教育センターの教育研究発表大会に参加	模擬授業研究会でプロンプター養成研修（教科主任対象）
次年度にできること	教材を開発して、総合教育センターの教材キットに提供	授業アンケートを生かした年間指導計画の見直し	複数教科の担当が参加する研究授業+授業研究会
		3年間の学習指導計画の見直し	統一フォーマットの授業評価票の改善 シラバスの活用と改善
			一人一回の研究授業+授業研究会